

〔洞房語園〕大門口御高札御文言

覺○中略

一 醫師之外何者に寄らず乗物一切無用たるべし○中略

五月

〔青標紙三編〕女中乗物并挾箱之次第

一 御本丸西丸大奥女中方朱ぬりあじろ乗物被相用候御役々左之通り

老女衆 小上臈 御客應答 御中臈 御錠口 表使

御守殿御住居之分は老女衆計り朱ぬりあじろ御免

一 御本丸西丸大奥女中衆青漆塗乗物相用候分

御次頭 御右筆 御錠口介 御次 切手書 尼 吳服之間頭 吳服之間 御廣座敷頭

御三之間頭

御目見以下之分は吳座包乗物之事○下略

〔享保集成絲綸集四十五〕寛文五巳年二月

一 町中にて籠あんだに乘候者有之由に候段前々御法度に候間自今以後は町中は不及申品川

千壽板橋高井戸此内を限り堅乘申間敷候若相背乘候もの有之候は、相改捕之急度可申付

候事

一 乗物并籠あんだ御赦免無之者旅江出候とも又は旅より江戸江罷越候共品川千壽板橋高井

戸此内に而堅乘申間敷候是又相背乘候もの有之候は、相改急度可申付事

二月

延寶五巳年四月